

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告書

学校名【 横浜市立 大島中学校 】

1 実践テーマ	【スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築】
2 実施対象者	① 全校生徒 ・保健体育の授業は3年生対象
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ○ ）
4 目 標 (ねらい)	○特設コーナーを設け、写真やサイン等を展示することによって、オリンピック、パラリンピアの方々が身近に感じることができる。それによって、2020のオリンピック・パラリンピックを親しみを持って、応援できる姿勢を育てる。 ○障害の有無にかかわらず、共に力を合わせて生活できる共生委社会を実現するために何ができるかを考える。 ア、 障害者との交流 イ、 地域との連携 ウ、 体力向上の推進
5 取組内容	○特設コーナーを校内に設置することで、生徒の関心・意欲を高める。 ・パネル写真の展示（サインのあるものを含む） ・競技で使用する道具の展示（サインのあるものを含む） ※生徒ふれあいコーナー（昇降口付近）に展示している。 ○2月25日パラリンピアンによる講演会を実施した。 講師 中山 和美 氏 リオデジャネイロパラリンピアン 車椅子レーサー ・4 時間目・5 時間目にかけて全校で実施

	○体育大会に向けて、学級対抗の長縄チャレンジに取り組んだ。 ・体育授業や休み時間などに生徒たちが主体的に声をかけて、前向きに取り組んでいた。集団づくりや体力づくりに役立った。 
6 主な成果	○日頃の取組をオリンピック・パラリンピックに関連付けて実施したことで、機運の醸成につながった。 ・平成29年度の体力づくりの取組の継続 (体力テストの結果から、投力の育成を焦点化して小中学校がそれぞれの取組を行った。→今後も継続していく。) ・様々な取組を学校創立70周年記念式典やオリンピック・パラリンピック教育にからめて行った。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○生徒・保護者や地域の方が来校した時に、目に付きやすい場所に、特設コーナーを設置する。(生徒ふれあいコーナー) ・学校の様々な活動と事業を結びつけて取り組むよう工夫した。 (70周年とオリンピック・パラリンピック教育のキーワードを多くの活動に結び付けて実施した) ・生徒たちの興味・関心がわくように身近な年代のトップアスリートを取り上げるようにした。
8 主な課題等	○講演会をしていただきたいが、オリンピック・パラリンピアンの方がなかなか見つからない。 ・周年行事に合わせて、オリンピックやパラリンピアンを招聘しようとしたが、うまくマッチングさせることが難しかった。 ・2月末にも招聘を計画しているが、1月中旬になっても決まりにくい状況がある。 ○オリンピック・パラリンピックと関連させるために多くの工夫が必要な行事もあった。
9 来年度以降の実施予定	○特設コーナーは2020年実施年まで継続していく。 ・必要に応じて、展示を追加していく。 ○講師を招聘し、講演会や体験会を行いたい。 ・本物に触れる機会をもつことや、努力を重ねた方の話を聞き、考え方や生き方について学ぶ機会とする。 ・講演だけではなく、実体験を伴う活動を計画していきたい。